

図書館だよ

よ 「読んでっ亭」通信



一迫商業高校図書館 中條
令和2年度10月号

休館日…8日

◎秋といえば… ☆☆☆

10月1日は中秋の名月でした。太陰太陽暦の8月15日にあたる日の月を指すとのことで、必ずしも満月ではないそうなのですが、秋の夜風と虫の音とともに見上げる月はとても心が穏やかになりますね。そんな穏やかな気持ちで本を手にとればきっと“ス〜ッ”と物語の中に引き込まれることでしょう。本当に秋は読書に適した季節ですね。



◎今月のオススメ本（まずは手にとってみてください）

読書の秋にオススメしたい3冊を紹介します（1冊にしぼれませんでした）。

①「あの日の交換日記」辻堂ゆめ著

短編集にして長編。教師と児童、姉妹、被害者と加害者、夫と妻、母子、上司と部下、各章でわだかまりがあるそれぞれが日記を交わすことで、わかり合いハッピーエンドになるのですが、更に最終章を読み終えた時、それら全てのストーリーがひとつの大きな物語へと変容し、読后感動でしばらく放心状態でした。

②「赤ずきん、旅の途中で死体と出会う。」青柳碧人著

これも短編集です。下地はおなじみの童話です。しかし、ただのパロディーではありません。そして、最終章で赤ずきんちゃんとマッチ売りの少女が対峙した時、全ての短編が伏線だったことを知り、読後呆然としました。

③「水を縫う」寺地はるな著

4人（5人）家族の物語です。家族一人ひとりに焦点をあて、各章で主人公が入れ替わります。そしてそれぞれの章で、自分自身に対する思いや家族への思いが語られていきます。そこから“分からないから分かろうとする”家族愛が浮かび上がってきて、読後、“もう少し家族を大切にしよう”と反省しました。

◎読書環境調査集計結果（概要）

7月14日に実施しましたこの調査について、集計結果をお知らせします。

まず、一番ホッとしたのが「読書が嫌いではない人」が全体の8割もいたということです。ただ、その読書傾向はライトノベルやノベライズといった、娯楽性の高い本が大半を占めていました。今後は少しずつ有名な賞を受賞した文芸書や学術的な新書などを手に取り、ステップアップを図ってほしいと思います。そうすることで、益々いろいろな考え方ができるようになり、“生きる力”をパワーアップさせることに繋がっていきます。また、読み慣れると読むスピードも速くなるという相乗効果も生じます。

ちなみに、アンケートに記載されていたリクエストやオススメ本を購入しましたので、図書館をのぞきにきてみて下さい（新着本リストは裏面に記載）。

ご協力ありがとうございました。